

イチゴ「ふくはる香」の促成栽培における芽数管理と電照効果

福島県農業試験場 野菜部
平成16年度試験成績概要
分類コード 03-07-01161800

部門名 野菜—イチゴ—品種、生育調節、作型・栽培型
担当者 雨宮潤子・山内富士男

I 新技術の解説

1 要旨

「ふくはる香」の1月どり促成栽培においては、保温開始以降の芽数管理および電照の必要がない。

- (1) 保温開始以降の芽数管理を行わない場合でも、腋芽の発生数は少なく、L級以上の大玉果収量を高く維持したまま商品収量も増加する。
- (2) 日長15時間になるよう電照を行った場合、草勢は強くなるが、商品収量は低下する。

2 期待される効果

芽数管理を必要としないために省力的であり、また、電照設備を必要としないため低コストで栽培できる。本成果により、新品種の普及が円滑に行われ、高位安定生産ができる。

3 適用範囲

「ふくはる香」の促成栽培地域

4 普及上の留意点

- (1) ふくはる香の栽培にあたっては、最低夜温6～8℃を確保する。
- (2) ふくはる香はうどんこ病に弱いため、うどんこ病の防除を徹底する。

II 具体的データ等

表1 各花房の発生本数と1花房当たりの着果数(2003～2004年) 回

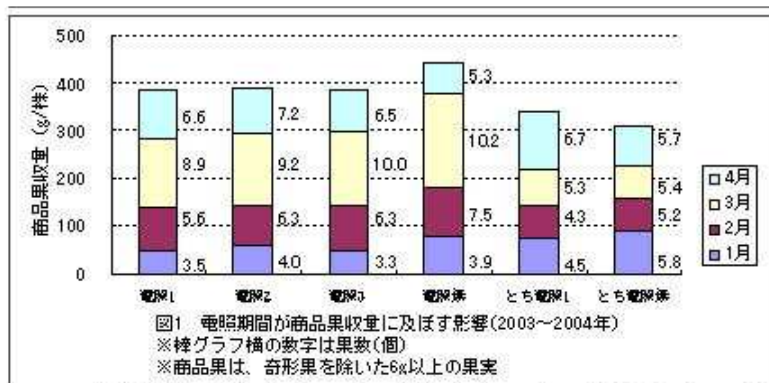
芽数	第1花房		第2花房		第3花房		第4花房		第5花房	
	花房数	着果数	花房数	着果数	花房数	着果数	花房数	着果数	花房数	着果数
1芽	1	13.6	1	10.9	1	8.2	1	4.4	1	—
2芽	1	12.2	1	10.3	1.5	7.7	1.6	5.3	1.6	—
放任	1	11.1	1	10.1	1.3	9.0	2.4	5.2	2.2	—

※花房数：本、着果数：個 回

表2 保温開始後の芽数と収量(2003～2004年) 回

芽数	月	規格別果数				L～凡計		商品果計		奇形果 ぐず果		合計	
		M	2L	L	M+S	果数	果重	果数	果重	果数	果重	果数	果重
1芽	12	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2	4	0.2	4	0	0	0.2	4
	1	1.1	1.7	1.8	1.2	4.6	95	5.8	106	0.3	0	6.0	109
	2	0.2	1.9	1.5	4.0	3.5	63	7.5	99	0.3	0.3	8.1	106
	3	1.1	2.3	2.1	3.0	5.5	106	8.4	131	0.2	1.4	10.0	141
	4	0.3	1.5	1.7	3.5	3.5	62	6.9	92	0	2.0	8.9	101
計		2.8	7.4	7.1	11.5	17.2	330	28.7	431	0.8	3.7	33.1	460
2芽	12	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	3	0.1	3	0	0	0.1	3
	1	1.2	1.3	1.2	0.3	3.7	73	4.4	85	0.4	0	4.3	90
	2	0.6	1.2	1.6	3.7	3.4	63	7.0	95	0.6	0.7	8.3	105
	3	1.0	2.8	2.4	3.8	6.2	119	9.9	153	0.3	1.5	11.7	162
	4	0.3	1.4	2.0	4.2	3.7	66	7.9	102	0.0	3.2	11.1	116
計		3.1	6.7	7.2	12.4	16.9	323	29.3	433	1.2	5.4	35.9	477
放任	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1	1.1	2.0	1.6	1.5	4.6	93	6.0	108	0.1	0	6.1	109
	2	0.6	1.4	1.2	3.5	3.2	62	6.6	92	0.3	0.9	7.8	102
	3	0.5	2.8	2.9	3.8	6.2	110	10.0	144	0.0	2.4	12.3	155
	4	0.1	1.7	2.6	5.7	4.4	73	10.0	121	0.1	3.9	14.0	139
計		2.2	7.3	8.2	14.4	18.2	337	32.6	465	0.5	7.1	40.1	505

※規格の分類は、果實果物出荷規格による。



(電照期間は、電照1が11/14～3/6、電照2が11/14～2/20、電照3が11/14～2/6)

Ⅲ その他

1 執筆者

雨宮潤子、佐久間秀明

2 主な参考文献・資料

なし